



赤い羽根共同募金作文・ポスター作品コンクール 2021

作文の部 中学校 最優秀作品

# 思いを羽根にのせて

三沢市立堀口中学校 3年 山本夏実

今年の夏は各地で豪雨災害が多発している。災害により多くのものを失い、不自由な思いをしている人がたくさんいる。私は、困っている人の力になりたいと思うが、直接現地へ行き、ボランティア活動を行うことは中学生の私ではほぼ不可能だ。被災地どころか、身近にいるちょっとした不便を感じている人ですら直接手助けすることができないかもしれない。そんな私たちの代わりに、困っている人のために力を発揮してくれるのが「募金」だと思っていた。

実際、募金には様々なものがあり、赤い羽根共同募金は、被災地の支援として使われることがある。しかし、被災地の支援だけでなく、障害者の支援などみんなが暮らしやすい町にするためにも使われているそうだ。私の住む三沢市では、グリーン作戦や社協まつり、一人暮らしのお年寄におせち料理を提供する活動など、様々な活動のために募金が使われていた。特定の誰かだけではなく、みんなが幸せに暮らすために必要な手助けをする。それが、赤い羽根共同募金だと感じた。

私も社協まつりに参加し、出店の手伝いをしたことがある。そのときは、だれかのためではなく、楽しそうだからという自分のための理由で参加していた。しかし、自分のために一生懸命していたことでも、まつりの最後には笑顔になる人が増えていたことを思い出す。募金とはそんな活動も支援していると知り、今までよりもリアルで実感を伴ったものとして意識されるようになった。

また、学校の授業で行われる福祉体験学習でも募金が使われている。私たちが学習により知識や経験を得ることができるのは、この活動を支援する募金の支えがあったからだ。私自身は「困っている人」の意識はなかったが、このような形で募金してくれた人に支援されていたと気づき「ありがとう」という気持ちがわいてくる。

赤い羽根のルーツは、アメリカの先住民の羽根飾りからきていて、勇気と良い行いのシンボルだという。赤い羽根を胸につけるのは勇気と思いやりのしるし。私やみんなの少しの勇気と思いやりが赤い羽根にのって、だれかのもとへ羽ばたいてほしいと思う。

私もみんなも一人じゃない。私たちは、地域の中で支えられ、助け合いながら生きている。そんな素晴らしい世界で胸を張って生きていきたい。